90年代
ヴィジュアル系ロック
名盤100選

冬将軍

90年代
日本のロックシーンの
なかで生まれ多くの若者が熱狂した
「ヴィジュアル系」を
『ROCK AND READ』等で活躍する**気鋭の音楽ライター**が
名盤とともに振り返っていく！

90年代ヴィジュアル系ロック名盤100選

冬将軍

星海社

369

SEIKAISHA SHINSHO

前奏　〜イントロ〜

本書はただのヴィジュアル系ディスクガイドではない――。

激動の90年代、日本のロックシーンのなかで生まれた、**ヴィジュアル系**シーンのムーヴメントを名盤とともに振り返っていく。それが本書のテーマである。

ヴィジュアル系とは音楽ジャンルではない。
そもそも音楽を表している言葉ではない。

とは言いつつも、ダークさ、悲愴感、耽美性、退廃的、厨二病……**ヴィジュアル系**の匂いを感じさせる歌詞とメロディ、サウンドや楽曲構成は確実に存在する。しかし、明確な定義がない**ヴィジュアル系**である。もし定義があるとすれば「オレたち、**ヴィジュアル系**

です」と名乗っているか、自分たちがそう呼ばれることを認めているかどうかだろう。

今となっては当たり前のように使っているヴィジュアル系という言葉だが、流行し始めた当時は蔑称としての意味合いが大きくあった。

「音楽よりも見た目重視のバンド」

「音楽に自信がないからメイクをしているのでは？」

なんていう偏見の目で見られたものである。

80年代バンドブームで奇抜な格好をしたバンドは〝オケバン＝お化粧バンド〟と呼ばれ、お化粧系、黒服系、美学系……さまざまな呼び方をされたバンドがいた。そして、いつしかそういったバンドは**ヴィジュアル系**と呼ばれるようになった。

90年代**ヴィジュアル系**を語る上で大きく立ちはだかるのが１９９６年10月にスタートし

た、ブームの象徴的存在でもあるテレビ番組『Break Out』（テレビ朝日系列）の放送以前と以降の世代差である。**ヴィジュアル系**という言葉ありきでバンドを見ている〝以降〟世代と、自分の好きなバンドがいつのまにか**ヴィジュアル系**と呼ばれていた〝以前〟世代。そこには埋まらないほどの溝がある。そもそも音楽表現の延長で、他人と違うことをするために奇抜なメイクと髪型、派手な衣装を纏っていたにもかかわらず、「音楽に自信がないからメイクをしているのでは？」などという誤解を招くような言葉で括られるようになった。唯一無二になるためにしていたビジュアルなのに、それでカテゴライズされるようになってしまった……。当事者としては怒っても当然だった。

音楽を表す言葉ではないからこそ起こる悲喜交々に皆が振り回されていった、それが90年代**ヴィジュアル系**シーンなのである。

今では当たり前のように〝**ヴィジュアル系**のレジェンド〟として認識されているバンドであっても、当時はアーティスト本人もリスナーも**ヴィジュアル系**だと思っていなかったし、そもそも90年代前期には**ヴィジュアル系**という言葉もまだ浸透していない。

ただ本書では便宜上、90年代初頭のシーンを含めて、**ヴィジュアル系**という言葉ありきで語っている箇所があるのでご容赦いただきたい。

ヴィジュアル系という言葉がまだなかった、浸透していなかった黎明期の名盤から、ブームを牽引したバンド、そこを取り巻く様々な時代変化で生まれた問題作……などなど、**ヴィジュアル系**アーティストであろうがなかろうが関係なく、現在まで続く**ヴィジュアル系の音楽性やスタイルに影響を与えたアーティストのアルバムを選んだ**。だからタイトルも「ヴィジュアル系バンド」ではなく、「**ヴィジュアル系ロック**」とした。**ヴィジュアル系**がどうやって形成されていったのか、そこを重要視している。

80年代バンドブームの余韻から生まれた**ヴィジュアル系**ブームだが、海外オルタナティヴロックの影響による音楽性の前衛化、さらに流行ファッションの移り変わりによって、〝脱・ヴィジュアル系＝脱ヴィジュ〟をしていった者も多くいる。それはアーティストだけでなく、リスナー側もそうだ。そうした背景や時流がわかるような幅広い１００枚を選び、リリース順に並べた。

セレクトは1アーティストにつき1タイトルとし、オリジナルアルバムのみ。ベスト盤、ライブ盤、オムニバスは選んでいない。

ヴィジュアル系ブーム直撃世代はもちろんのこと、逆にブームが起きたことで離れてしまったリスナーも多くいるだろう。そうした〝ヴィジュアル系アレルギー〟を持った人にも捧げたい。

80年代バンドブームから90年代初頭にかけての時代が青春真っ盛りだった世代、他誌のタイトルを借りれば、〝昭和50年男〟（＝昭和50年に生まれた世代、その前後も含む。もちろん女性も）にも楽しめるはずだ。『機動戦士ガンダム』や『キン肉マン』、『聖闘士星矢』にハマった少年少女たちが、非日常世界で二次元的な要素を持った**ヴィジュアル系**にハマるのは自然の流れだったのかもしれない。

正義のヒーローから悪役のヴィランまで。八百万神のごとく次々と出てくる個性に溢れ、闇にまみれたアーティストとアルバムを、とくとご堪能あれ。

レビューページの見方

アルバム名

一部の例外を除き、リリース時の表記に基づいて掲載しています。

発売年・月・日

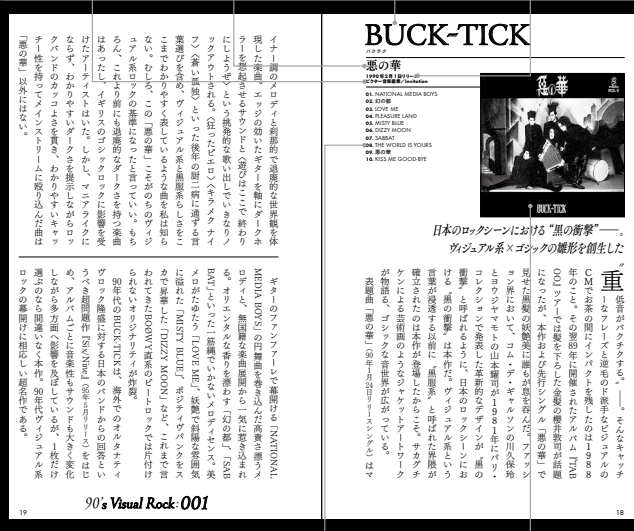
オリジナル盤の発売年月日を掲載しています。

レーベル

一部の例外を除き、初出のレーベル名を掲載しています。

アーティスト名

一部の例外を除き、リリース時の表記に基づいて掲載しています。



BUCK-TICK

バクチク

悪の華

1989年3月1日リリース
ビクター／東芝音楽工業／Inriration

01. NATIONAL MEDIA BOYS
02. 幻の薔
03. LOVE ME
04. PLASUIRE LAND
05. MISTY BLUE
06. DIZZY MOON
07. SABBAT
08. THE WORLD IS YOURS
09. 悪の華
10. KISS ME GOOD-BYE

日本のロックシーンにおける"黒の衝撃"――。
ヴィジュアル系×ゴシックの礎形を創生した

"重低音がパクチクする。"――。そんなキャッチフレーズと逆毛の秀手なビジュアルのCMでお茶の間にインパクトを残したのは1988年のこと。その翌89年に開催されたアルバム「CAD CDL」ツアーでは髪を下ろした金髪の櫻井敦司が話題になったが、本作および先行シングル「悪の華」で見せた黒髪の妖艶美に誰もが息を呑んだ。"ファッション界において、コム・デ・ギャルソンの川久保玲とヨウジヤマモトの山本耀司が1981年にパリ・コレクションで発表した革新的なデザインが「黒の衝撃」と呼ばれるように、日本のロックシーンにおける「黒の衝撃」は本作だ。ヴィジュアル系という言葉が浸透する以前に「黒服系」と呼ばれた黒服が確立されたのは本作が発端。ヴィジュアル系というキャッチフレーズが物語る、ゴシックな音世界が広がっている。

表題曲「悪の華」(89年1月24日リリースシングル)はマイナー調のメロディと刹那的で退廃的な世界観を体現した楽曲。エッジの効いたギターを軸にダークホラーを想起させるサウンドと〈遊びはここで終わりにしようぜ〉という挑発的な歌い出しへでいきなりノックアウトされる。〈会ったとエロ〉へキラメク ナイフン〈香り〉〈黒艶〉といった後年の厨二病に通ずる言葉選びを含め、ヴィジュアル系と黒服系らしさをここまでわかりやすく表しているような曲を私は知らない。むしろ、この「悪の華」こそがのちのヴィジュアル系ロックの基準になったと言っていい。もちろん、これより前にも退廃的なダークさを持つ楽曲はあったし、イギリスのゴシックロックに影響を受けたアーティストはいたし、しかし、マニアライクにならず、わかりやすいダークさを提示しなきゃロックバンドのカッコよさを貫き、わかりやすいキャッチ性を持ってメインストリームに殴り込んだ曲は「悪の華」以外にはない。

ギターのファンファーレで幕開ける「NATIONAL MEDIA BOYS」の円舞曲を巻き込んだ高貴さ漂うメロディと、無国籍な楽曲展開から一気に畳き込まれる。オリエンタルな香りを漂わす「幻の薔」、「SABBAT」といった一筋縄でいかないメロディセンス。美メロがたまらない「LOVE ME」、妖艶で斜陽な雰囲気に溺れた「MISTY BLUE」、ポジティイヴ・パンクをスパイスとして見事にした「DIZZY MOON」など、これまで言われてきたBOOWY直系のビートロックとは片付けられないオリジナリティが炸裂。

90年代のBUCK-TICKは、海外でのオルタナティブロック隆盛に対する日本のバンドからの回答ともいうべき超問題作「DIZZNEA」(92年3月リリース)を生むべく、アルバムごとに楽曲やサウンドも大きく変化しながら多方面へ影響を及ぼしているが、1枚だけ選んでいるなら間違いなく本作。90年代ヴィジュアル系ロックの幕開けに相応しい超名作である。

90's Visual Rock:001

19

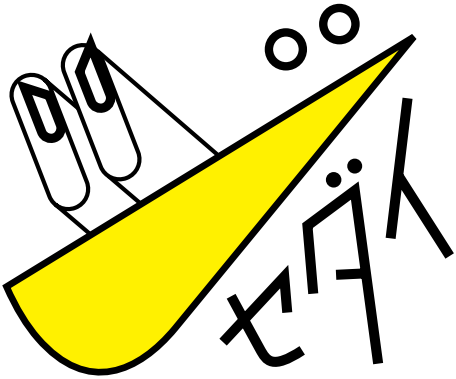
18

収録曲

オリジナル盤の収録曲を掲載しています。表記は基本的にジャケット、ブックレットに基づいています。

ジャケット

一部の例外を除き、オリジナル盤のジャケットを掲載しています。



何と闘うか？

https://ji-sedai.jp

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

ジセダイイベント　著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！　行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研　若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み　既刊・新刊を含む、すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!